





挨拶する横倉義武委員長 (3月16日)

「日本医療懇談会」名簿

平成25年4月15日現在

衆・参	氏名	役職	当	選挙区
衆	野田 毅	社会保障制度に関する特命委員長 (党税調会長)	14	熊本2区
衆	鴨下 一郎	社会保障制度に関する特命委員長代理 (党国対委員長)	7	東京13区
衆	秋葉 賢也	厚生労働副大臣	4	宮城2区
衆	渡嘉敷奈緒美	厚生労働大臣政務官	2	大阪7区
衆	永岡 桂子	厚生労働部会部会長代理	3	比例北関東
衆	松本 純	厚生労働委員会委員長	5	神奈川1区
衆	上川 陽子	厚生労働委員会理事	4	静岡1区
衆	高鳥 修一	厚生労働委員会理事	2	新潟6区
衆	棚橋 泰文	厚生労働委員会理事	6	岐阜2区
衆	富岡 勉	厚生労働委員会理事	2	長崎1区
衆	西川 京子	厚生労働委員会理事	4	比例九州
参	尾辻 秀久	社会保障制度に関する特命委員会顧問 (元厚生労働大臣)	4	比例
参	丸川 珠代	厚生労働大臣政務官	1	東京
参	福岡 資麿	厚生労働部会部会長	1 (衆1)	佐賀
参	石井 みどり	厚生労働部会部会長代理	1	比例
参	赤石 清美	厚生労働委員会理事	1	比例
参	中村 博彦	厚生労働委員会理事	2	比例

(順不同・敬称略)

「日本医療懇談会」開催

「TPP(環太平洋経済連携協定)問題」「医療税制」「チーム医療」で意見交換

日医連と自民党議員との意見交換会を定例で開催することを確認。

三月二十六日都内において日医連と自民党の社会保障政策や税制を専門としている議員(別表に名簿記載)との意見交換会である「日本医療懇談会」が開催され、「TPP問題について」「医療に関する税制について」「チーム医療について」の三項目を議題として意見交換が行われた。

成十八年から継続的に行われていたが、平成二十一年九月の政権交代以降中断していた。今後は月一回のペースで定期的に行うことが確認された。なお、第二十五回については、四月二十三日に行われ、「医療事故調査制度」を主な議題として意見交換を行った。



(左から) 松本純衆議院厚生労働委員長、鴨下一郎自民党国会対策委員長、野田毅自民党税制調査会長、尾辻秀久元厚生労働大臣 (3月16日)

横倉委員長

甘利TPP担当大臣と会談



甘利明内閣府特命担当大臣(右)と横倉義武委員長 (3月21日)

甘利大臣は、今後の交渉状況を注視しており、この三条件が守られ、日本の国益が守られるよう、政府に強く求めていく(要旨)と述べた。

横倉義武日医連委員長は、三月二十一日、甘利明内閣府特命担当大臣(経済再生・TPP担当)と会談し、政府がTPP交渉参加を表明したことに関連して、国民皆保険は日本の国益として必ず守るべきもののひとつであるとして、改めて甘利大臣に要請を行った。横倉委員長は、「国民皆保険の堅持とは、①公的な医療給付範囲を将来にわたり維持すること、②混合診療を全面解禁しないこと、③営利企業(株式会社)を医療機関経営に参入させないこと」の三条件がすべて守られることである」と甘利大臣に説明し、そのうえで、「日医連(日医)は、今後の交渉状況を注視しており、この三条件が守られ、日本の国益が守られるよう、政府に強く求めていく(要旨)と述べた。

「医療政策研究会」が発足

日医連と自民党の衆参五十八名の議員との意見交換会「医療政策研究会」を武見敬三参議院議員が中心となり発足させた。第一回の意見交換会は二月六日に都内において開催された。

二月六日、都内において第一回「医療政策研究会」が開催された。当日は代理を含め衆議院議員二十九名、参議院議員七名の合計三十六名の議員が出席し、日医連役員と今後の本研究会の進め方や社会保障における諸課題の総論について意見交換を行い共通の認識をもつことが



挨拶する武見敬三参議院議員 (2月6日)

- 顧問 平沢勝栄衆議院議員
- 顧問 鴨下一郎衆議院議員
- 事務局長 吉川貴盛衆議院議員
- 幹事長 河井克行衆議院議員
- 副会長 西川公也衆議院議員
- 会長 武見敬三参議院議員

○医療政策研究会の役員

当日は、日医連から「予防接種法改正について」「医学部新設問題について」の二課題について担当役員が説明した。そのうち、意見交換が活発に行われ、日医連(日医)の医療政策の理解につながる会合となった。

はにゅうだ 羽生田たかし

自民党 参議院比例区(全国区)支部長 日本医師会 副会長

すべての人に やさしい医療を

- 安心して医療が受けられる社会を創ります
- 地域に密着した医療を創ります
- 信頼関係を基盤とした医療環境を創ります

2枚目の男! (一面の投票方法についてをご覧ください)

羽生田たかし オフィシャルホームページ

http://www.hanyuda-t.jp/

フェイスブック

https://www.facebook.com/takashihanyudaofficial

ホームページ QRコード



平成24年度

# 第二回「日医連医政活動研究会」 東北・九州・北海道ブロックで 相次ぎ開催

## 三月二日 東北ブロック開催

(当番県 青森県医師連盟)



東北ブロック

連盟委員長に基調講演をお願いした。羽生田先生は七月の参議院選挙で比例区(全国区)から立候補する予定であり、日医連としてはすでに推薦決定しているところである。選挙は「究極の医政活動」である。」と支援の重要性を訴えた。

続いて、研究会に入り、まず、司会の中村常任執行委員から、忌憚のない意見交換会にしたい。と、強い要望があった。

三月二日、第二回「日医連医政活動研究会」(東北ブロック)意見交換会が、青森市内のホテルにて青森県医師連盟が主体として開催された。当日は、東北・北海道を記録的な寒波が襲い、猛吹雪と強風で交通の足が乱れるなかでの出席であった。

研究会は、中村渉・青森県医師連盟常任執行委員が司会を務め、最初に、齊藤勝青森県医師連盟委員長が挨拶に立ち「日本医師会が国や行政に働きかける要請活動は年間多数あるが、現在、最重要課題は、国民皆保険の堅持、PPP問題、医学部新設問題、控除対象外消費税、特定看護師問題等がある。若手医師の皆さんには、日医の政治活動でいま何が必要か、何が足りないか、十分に考えていただきたい。今日は羽生田たかし日医

議院比例代表選挙について。医療政策についての陳情活動では、平成二十四年度における

主な医療政策(税制改正要望、控除対象外消費税、PPP、予防接種、医療事故調査制度、医師法二十一条、特定看護師、医学部新設、など)をわかりやすく説明。

## 三月二日 九州ブロック開催

(当番県 宮崎県医師連盟)



九州ブロック

参議院比例代表選挙については、平成二十二年参議院比例代表で当選者を出した主な医療関係団体について、最近の医療政

各先生方の意見では、「東北は人物とのつながりが強い」政党というより、医療をよく考えている国会議員を応援している「フェイスブックに着目している」「医政をわかっている若い先生が少ない」「最近の日医連推薦議員は国会で何をやってきたか、よくわからない」「サポーター名簿は連記記入だと患者さんがいやがる」「メディアに露出しないと知名度が浸透しないのでは」等の意見が出され、熱気溢れる討議を終了した。

五時半から開催された基調講演は、村上壽治・青森県医師連盟副委員長の司会で、講師の羽生田副委員長が、「日医の医療政策と医政活動について」と題し講演した。主な柱は、「医療政策についての陳情活動」に参

策の動き(特定看護師問題、生活習慣病のOTC化問題)、なぜ比例代表から候補を出すのか?、七月の参議院比例代表選挙に候補者を擁立する予定の主な医療関係団体、参議院選挙の投票方法について(比例代表(全国区)の候補者名を書いて投票)等、平易にポイントを説明し、理解が深まった講演であった。

はじめに、稲倉正孝宮崎県医師連盟委員長から、「若手会員の医政活動離れがあるが、社会保障制度の決定は政治の場で行われている。よりよい医療提供を行うためにも、我々が声を上げなければ、現場を知らない政治家や官僚が制度を決めてしまう。このことを若手会員にも理解していただきたい。夏の参議院選挙では日医連の政治力が試されている。羽生田たかし副委員長

政治活動研究会(九州ブロック)が宮崎市内で開催された。当番県である宮崎県医師連盟が主体となり他の九州ブロック各県の協力のもと、各県の研究会メンバーと地区医師連盟役員等約百名が参加した。

に關する医療機関における控除対象外消費税問題、「調剤医療費の伸びと薬剤師の業務拡大について」、「看護職の特定機能の承認について」、「参議院選挙について」に關する講演を行った。

講演の終了後、意見交換が行われ、各県から医政活動への取り組みについての報告があった。また、特に夏の参議院比例代表選挙に対する対応についても、各県の取り組み状況の紹介や、活発な意見がかわされた。

松田氏からは、一度ではなく、継続的に働きかけを行うことが重要との話があり、また、参加者から、「選挙活動と後援会活動の違いについて」、「公職選挙法について」等の質問がなされ、今後の羽生田副委員長の政治活動の展開に關して、極めて有意

## 三月十六日 北海道ブロック開催

(当番県 北海道医師連盟)



北海道ブロック

義な意見交換となった。研究会終了後、懇親会が行われ、藤川日医連参与、清山県議、松田氏らと研究会メンバーとの間で議論がかわされ、さらなる

去る、三月十六日、北海道ブロックにおける第二回「日医連医政活動研究会」が札幌市内にて開催された。北海道医師連盟が主体となり、研究会メンバーと地区医師連盟役員等多数が参加した。当研究会開催運営に關しては、研究会メンバーらが事前打合せをするなど協議を踏まえた運びとなった。

当日は、北見と函館に会場を設け、テレビモニターを通じてのライブ映像を配信し、遠方の先生方も参加した。かたちとなった。

研究会は、井門明日日医連医政活動研究会北海道ブロック幹事長と平山繁樹同ブロック副幹事長の両先生が総合司会を務め、長瀬清北海道医師連盟委員長と横倉義武日本医師連盟委員長の挨拶、前厚生労働大臣政務官の梅村聡参議院議員による基調講演、医療事情についてのシンポジウムが行われた。

横倉委員長は、「医療政策を政治の世界で実現するため、医政活動がとても重要である」と改めて感じる。今研究会においては、参加者の皆さまからたくさん意見を出していただき有意義な会にしたい。と、強い要望があった。